

わたっこハウス

2025年度
事業報告

事業報告

事業実績報告

保育におけるスタッフの実践力の向上

育成支援の情報提供の強化

子どもの権利条約の意識啓発

子どもの集団作り

事業実績報告

年間開所日数282日
平日平均51.6人

年間目標39,500,000円
収益実績39,688,490円

達成率100.4%

委託金内訳

項目	金額	項目	支援の単位A	支援の単位B	支援の単位A+B
保育料事業費 (特別徴収含む)	11,512,000	基本額	5,117,000	5,117,000	10,234,000
おやつ・教材費	2,976,000	開所日数加算	378,000	357,000	735,000
委託金	21,182,000	長時間開所加算	830,500	830,500	1,661,000
児童奨励費	3,592,000	障害児受入推進	2,232,000	2,232,000	4,464,000
その他の収益	426,490	障害児受入強化推進	2,232,000	0	2,232,000
合計	39,688,490	家賃等補助	0	540,000	540,000
		キャリアアップ 処遇改善費	394,000	526,000	920,000
		放課後児童支援員等 処遇改善費	132,000	264,000	396,000
		合計	11,315,500	9,866,500	21,182,000

【保育におけるスタッフの実践力の向上】

■応用行動分析を勉強する

- ・書籍を購入したが、職員全員が読むことは出来ていない。学童に書籍があるので今後も読んでいく。
- ・事業所内での学習会は出来ていない。
- ・市や県が主催の研修や勉強会に参加をした。

■計画を立てる勉強をする

- ・11月にぐりーんの学習支援を見学に行った。

学習支援の現場を見て、学童でも出来そうな環境設定や、宿題をしている時にどんなところを見ればいいのかなどを学んだ。

学童で出来る支援として、宿題をしている時の目の動きを気にしてみる、宿題に集中できる環境設定を考える事を今後行っていく。

■子どもたちとの遊びについて勉強する

- ・放課後児童育成支援師の講義を受け、子どもたちを支援するために支援員が考えなくてはいけない事を学んだ。講義の後、毎回今日の講義で聞いたことの振り返りを行った。
- 学童ですぐに出来ることを提案をし、実際に子どもたちに実行した。

【育成支援の情報提供の強化】

■親子交流会を設定（2025年5月24日（土）12：00～14：00 ブリオ）

- ・コロナが明け学童では久しぶりの親子交流会でした。18世帯56名の参加があった。。保護者の方とゆっくり話が出来た。
スタッフと保護者、保護者と保護者などそれぞれの場所で交流があった。

■SNSの有効活用：入所説明会の詳細を掲載する

- ・今現在、入所説明会の詳細をHPに掲載できていない。
子どもの権利条約の動画をアップすることは出来ているので、もう少し練習をして入所説明会の詳細や学童の様子など掲載する。

■夏祭りに招待（2025年8月29日（金）・9月1日（月）2日間開催）

- ・子どもたちが学校の先生宛の招待状を作成し、保護者の方や行政の方や他事業所の参加もあり、子どもたちにケガもなく大盛況で終わった。子どもたちが招待した先生は全員（24名）来てくれた。学校で見られない子どもたちの様子が見れたと先生からお話があった。

【子どもの権利条約の意識啓発】

■子どもの権利条約プロジェクト第4期生活動

- ・4月に募集を始め、2年生4名 3年生9名 5年生1名 計14名で開始。継続10名新規4名
6月に発足式を行った。夏休み期間をのぞき、活動日は子どもたちで決め活動した。
人形劇・新聞・マンガを作った。
今回は日常の出来事、身近に起こっている子どもの権利に着目した内容になった。
(作品完成後、動画にする際にアフレコ参加児童2名)

■学校、行政、他事業所でお披露目会

- ・学校行政との調整が出来なかったので実施なし。

■SNSで外部にも発信する

- ・権利条約の動画をブログ掲載。乗せた動画がすぐにみられるようにQRコードを作成。学童玄関に掲示。

【子ども集団作り①異学年の取り組み】

■グループ活動（5月～） ■フリーおやつ（6/9） ■夏祭り（8/29・9/1） ■わたっこ運動会(10/20)
■縄跳び検定（11月中旬） ■伝承遊び大会（1月中旬） ■ババハウス（1/5）

■総合評価

- ・ 日々の過ごしの中で、おやつ時のルール、遊びのルール、片付け方のルールなどわたっこで過ごすためのルールを年上の子に教えてもらうことで困らずに過ごすことが出来た。
何かあれば年上に聞くことを伝えることで異学年の交流も増えた。
- ・ 取り組みの中では、異学年と一緒に体験する設定をしたことで、声を掛け合う場面が増えた。
グループで取り組みをすることで、1年生も参加しやすい形となった。
- ・ 企画自体を楽しむ事が出来ていた。企画を考えるときに、「みんなが楽しめることを作ろう」と伝え、どうしたらみんなで作れるかを考えたことで、参加しやすく楽しめるものが出来た。
- ・ 保護者参加の取り組みを設定することで、子どもたちの日々の様子を見てもうことが出来た。
参加してくれる世帯が増えた。

【子ども集団作り②学年の取り組み】

■ 3年生主催七夕会（7/7） ■ 5年生対象キャンプ（6/21.22） ■ 4年生主催ハロウィン（10/27）

■各取り組みの評価

七夕会（3年生）：時間の設定が曖昧だったため、途中から遊び始める子が出てしまった。

役割分担をしたことで、自分のやることがわかって動ける子が増えた。

だが、他の子を気にすることが出来ず、大人に声を掛けられてお手伝いをすることがあった。

みんなで協力するという事を伝えきれていなかった。

当日に向け準備を行ったので当日は、大人が見ているだけで子どもたちが考えて動く姿が見られた。

子どもキャンプ（5年生）：目標を伝えていたが、自分たちで何をすればいいのかわからない人がいた。

もっと具体的に伝えなければいけなかった。大人からの指示があるときはしっかりと動いていた。

美浜少年自然の家の方に掃除の仕方をほめられた。

ハロウィン（4年生）：自分たちで協力して企画を考える。その意味を分かっている子とわかっていない子に

分かれました。また、みんなで意見をまとめるときに、他事をして話し合いの場にいるだけでやる気のない子がいたことで、話し合いが進まず、意見をまとめるのに時間がかかることもありました。

頑張っている子たちの為にも、今どうすべきかを伝える必要があると感じました。

当日は自分の出来ることをそれぞれが行う姿が見られました。

【子ども集団作り②学年の取り組み】

■ 2年生主催節分会（2/3） ■ 3年生対象冒険旅行（3/7） ■ 6年生対象卒所旅行（3/20.21）

■各取り組みの評価

節分会（2年生）：新しい事に挑戦するのが苦手な学年でした。節分の話をしたときは、子どもたち自身が乗り気ではなく節分会をやりたくない子がありました。節分会の目的や本人たちの不安などを解消することでやる方向に変わった。話し合いの場ではたくさん意見を出せるのですが、最後まで人の話が聞けず途中で割り込む子が多くいた事で話を進める前に、人の話は最後まで聞いてから自分の意見を伝えることと都度伝えていく事で、意見をまとめることが出来た。

冒険旅行（3年生）：七夕会での反省を持ち、みんなに目的を伝え理解しているか確認してから進めた。
話をする日に参加できなかった子に伝えてほしいとお願いし、まず自分たちで伝えるようにした。
グループ分けは大人が入らず自分たちで進め、大人に報告も出来ていた。
たくさん歩くことに慣れていなかったなので体力の使い方がわからず、帰りには疲れている子が多かったが全員最後まで歩き切った。

卒所旅行（6年生）：2人の参加となったが、楽しく参加する事が出来た。東京まで〇kmに後もう少しなのか～とテンションを上げていた。自分達が2時間かけて歩いたところを、電車は5分で着いてしまい「え？は？文明の利器はすげえ」となっていた。とにかくたくさんの思い出が出来た。タスキも繋げることが出来た。

【子ども集団作り③ニーズを形にした取り組み】

■ポケカ部

- ・年間予定表を立てる事によって、子ども達自身が予定、準備を組み立てやすくなってきた。
- ・メンバーの中に自己発信できる人がおらず、大人に声を掛けてもらって何をするか把握していた。

■子どものニーズを聞き取るスタッフを増やしていく

- ・日々子どもたちと何気ない話をして、気になる話があれば共有しることが出来た。

■子どもたちと一緒に今年も考えていく

- ・子どもたちの声を形にした。…クリスマス工作・手作りおやつ

わたっこハウス

2026年度
行動計画

わたっこハウスの事業目的

育成支援と就労支援

児童健全育成事業は、適切な遊び及び生活の場を与え、子どもの状況や発達段階を踏まえながらその健全な育成を図る。また、学校や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、保護者と連携して育成支援を行うとともにその家庭の子育てを支援する事を目的とする事業です。

わたっこハウスは以下の3点を目標に日々保育を行っています。

- ①子どもの成長の場・経験の場・学びの場であると共に安心安全に過ごせる場・大切な場所になること目指す。
- ②全ての活動に対して、子どもの権利条約4本の柱を遵守する。
- ③年齢・学年にあった保育を行う。

今年度の事業所目標は

異学年の関りを通して育ち合える環境を作っていこう ～低学年も安心できる居場所に～

2026年度 収益目標 39,500,000円

達成見込み

登録児童数95名

(障害児受入加算対象者名(A:4人 B:3人))

委託金内訳

項目	見込み金額
保育料事業費 (特別徴収含む)	13,052,000
おやつ・教材費	3,420,000
委託金(内訳参照)	19,719,000
児童奨励費	4,056,000
その他の収益	400,000
※キャリアアップ処遇改善費・放 課後児童支援員等処遇改善費	1,316,000
合計	41,567,000

項目	支援の単位A	支援の単位B	支援の単位A+B
基本額	5,117,000	5,117,000	10,234,000
開所日数加算	294,000	294,000	588,000
長時間開所加算	830,500	830,500	1,661,000
障害児受入推進	2,232,000	2,232,000	4,464,000
障害児受入強化推進	2,232,000	0	2,232,000
家賃等補助	0	540,000	540,000
合計	10,705,500	9,013,500	19,719,000

※2025年度を参考に算出。

行動計画①

【保育におけるスタッフの実践力の向上】

応用行動分析（ABC分析）を身に着けるために、学童スタッフが出来る形で実践していきます。

**◎応用行動分析を実践するための機会と時間を作る
事例検討会を年間１０件は行う**

ABC分析シートを使い、見てわかるように進めていきます。
どのスタッフも、ちょっとしたことを短時間でシートに入れ込めるようになることが目標です。

【育成支援の情報提供の強化】

SNSだけでなく、アプリなどを使い保護者に今まで以上の情報を発信していきます。

◎SNSの活用

- 入所関係の情報を精査し、詳細をHPに載せる
- わたっこの様子をブログに掲載する

◎アプリの導入を検討する

- Totoru（出欠の確認・請求業務）を2027年度には導入出来るよう検討する

◎夏祭りに招待

- 行政・学校・保護者・他事業所にわたっこの育成支援（子どもたちの頑張る姿）を見もらう

【子どもの権利条約を広める】

子どもの権利条約プロジェクトは4期目終え、わたっこの多くの子どもたちには浸透したと認識している。これまで行政や学校にも広報活動を行ってきた。プロジェクトチームがこれまで力を入れてきた作品作りから、今年度は広報活動をメインに活動していきます。

◎子どもの権利条約プロジェクト第5期活動

- ・今年度もプロジェクトチームの募集をかけていく

◎プロジェクトチームが広報活動を行う

- ・プロジェクトチームのメンバーが行政・他事業所・他学童などに出向き
これまで作ってきた作品を使い、子どもの権利を広めていく

【子ども集団作り①異学年の取り組み】

子どもの集団作りはわたっこハウスが一番大切にしている事です。子どもの集団を作るためには子ども同士の関わりが必要だったり、年上が年下を気にして声を掛けることが必要になってきます。今、わたっこハウスは1～3年生までの人数がわたっこハウス総人数の2/3を占めています。これまで4～6年生に任せてきたことを3年生にもお願いしなくてはいけないようになってきました。まだまだ、教えてもらいながら学ぶ学年ですが、少しずつ伝えていく側になってもらえるよう、日々の生活の中や異学年の取り組みの中で伝えていきます

◎保育計画：各学年の目標

- 1年生：わたっこに慣れる・わたっこのルールを知る・取り組みに参加する
- 2年生：話を聞ける人になる・「ありがとう」「ごめんなさい」が言える人になる・わたっこのルールを守れる人になる
 - ・自分だけでなく周りの子が次の動きに間に合うように声を掛けていく
- 3年生：自分で時間を見て動けます・相手の話をさえぎらずに最後まで話を聞く・下級生の見本になるという意識をもつ
- 4年生：自分たちのことだけでなく周りを見て伝える力をつける・自分たちが声を掛ける意識を持つ
 - ・5.6年生のお手伝いをする
- 5年生：下級生に聞いてもらうための言葉を学ぶ・下級生の見本となる（見本とは何か考える）
 - ・自分たちで話をまとめる・6年生のお手伝いをする
- 6年生：思い出を作る・4.5年生と協力してわたっこをまとめる

- ☐ グループ活動
- ☐ 歓迎会
- ☐ フリーおやつ
- ☐ 七夕会
- ☐ 夏祭り
- ☐ わたっこ運動会
- ☐ 縄跳び検定
- ☐ 節分会
- ☐ 伝承遊び大会
- ☐ 卒所式
- ☐ ババハウス
- ☐ ポケカ大会

行動計画⑤

【子ども集団作り②学年の取り組み】

昨今、子どもたちの発信する力・考える力・創造する力が衰えてきています。主体的に動ける子がとても少ない現状でもあります。学年の取り組みを通して、自分たちで楽しいことを作る。自分たちで考えていく。そんなことを伝えていきます。

◎保育計画：取り組みの目標

- 子どもキャンプ：今何をするときかを考える・予定を確認して動く
- 七夕会：みんなが楽しめる会にする・みんなの話を最後まで聞く・時間に間に合うように動く
- わたっこ運動会：自分の意見を周りに伝える・自分たちで出来る限り話をまとめる
- デイキャンプ：仲間と協力する・時間を見て動く・周りを見て声を掛ける・自分の役割を理解し動く
- ハロウィン：自分たちでやりたいことを形にする
- 節分会：話し合いの時間に間に合うよう動く・みんなが楽しいと思えるものを作る
- 冒険旅行：周りの人の話を最後まで聞く・時間を見て動く・出た意見をまとめる
- 卒所旅行：タスキを繋ぐ・思い出を作る

- 5年生対象子どもキャンプ（6/20.21）
- 3年生主催七夕会（7/6）
- 5年生主催わたっこ運動会（10/18）
- 4年生対象デイキャンプ（10/24）
- 6年生主催ハロウィン（10/30）
- 2年生主催節分会（2/1）
- 3年生対象冒険旅行（3/13）
- 6年生対象卒所旅行（3/20.21）

行動計画⑥

【子ども集団作り③ニーズを形にした取り組み】

子どもから出た「やりたい」「こんなのどう？」っていう言葉を拾い、取り組みにしています。今年もポケカ部は継続していきます。今年もいろいろな意見を形にしていきます。

◎ポケカ部継続

- ・年間予定を立て、「大会」「勉強会」などの日の事前準備の日までを決め自分たちで動けるように設定し、ポケカ部のメンバー同士で声を掛けながら進めていく。

◎意見BOXを設置

- ・子どもたちの意見をこれまで以上に聞く為に意見BOXを設置します。
1カ月に1回意見BOXを開けその時に出来そうなことを実施していきます。
子どもたちに委員になってもらい一緒に考えてもらう。

◎子どもたちと一緒に取り組みを考える

- ・設定された取り組みの中に子供の意見を取り入れるために、発信する力を付けていきます。